

コウケンテツさん

[料理研究家]

イベントやウェブ、雑誌などで食の大切さを伝える活動をされている料理研究家のコウケンテツさん。給食の時間をはじめ、楽しいことばかりだったという小学校時代の思い出や、料理教室で子どもたちに教える経験を通して感じたことを語っていただきました。

競い合って食べた給食

小学校の思い出は、基本的に楽しいものばかりです。僕が通っていたのは、昔ながらの風情が残った大阪の下町にある小学校。本当にオープンで、のびのびしていたと記憶しています。

その母校を4年程前、テレビ番組の企画で訪問する機会がありました。校舎こそ建て替えられて新しくなりましたが、学校の雰囲気は全く変わっていませんでした。子どもたちに聞いても、皆「自由で、いじめがない」と言うんです。「ああ、僕の時と同じだな」と、先生方の顔ぶれが変わっても、当時の雰囲気が受け継がれていることにうれしくなりました。

母校の大阪市立海老江^{えびえひがし}東小学校は、一人ひとりの個性をきちんと認めていただける学校でした。勉強、工作、運動会、音楽会など、誰もが何かしら活躍できる場があり、給食の時間もその一つ。全部食べないとおかわりできないルールがあり、「いただきます」と言った後はいつも競争でした。料理によって一番におかわりをする「リーダー」がいて、僕はカレーでは絶対に他の子に負けなかったですね。

最大限にほめてくれた先生

僕の子どもの頃、先生は絶対的存在で、1、2年の担任だった退職間近のベテランの先生は、めちゃくちゃ怖かったと記憶しています。でも、その先生にはほめられたことがあるんです。

それは国語の時間で、教材は『くじらぐも』だったと思います。先生が「みんなが雲の上で遊んでいるのを見て、くじらが笑っているのはなぜか」と、たずねました。友達のほとんどが「みんなの様子がおもしろいから」と答えたのですが、僕は「自分が雲の上に連れて行ってあげたことでみんなが楽しそうに遊んでくれているから」と答えました。すると、先生が「いいことを言う」と、ものすごくほめてくれたのです。あれは本当にうれしかった。

この先生にはよく怒られたし、叱られる時はもう徹底的に叱られましたが、逆にほめる時は最大限にほめてくれました。今でも覚えているのは、やはり子ども心に先生が本気で自分に向き合ってくれていると感じられたからだと思います。小学生にとって、先生の存在は本当に大きいものがあります。先生方にはぜひ一人ひとりをちゃんと見て、接してもらいたいと思います。

子どもの創造性はすごい

テレビの母校訪問では、卒業間近の6年生を対象に、学校への感謝の気持ちを込めた給食を考える授業をしました。初日に、僕のレシピの創作術など食について話をした後、グループごとにメニューを考案。それを僕がレシピ化し、2日目に皆で調理しました。

料理は食べてもらう人のことを考えて作るとか、想いをこめて作るといった話をしたにもかかわらず、子どもたちが考えたメニューは、学校名にちな

んだエビフライ定食ばかり。

もっと学校に対する想いをぶつけてくれ、と僕はメニューを再考させることにしました。でも、ただ考えろ、と言っても難しいものがあります。そこで、学校を飛び出し、地域の人たちに学校の思い出を聞くなど、もっといろいろな角度から学校を見てみるようにアドバイスをしました。具体的にどうするかは、子どもたち次第です。

すると、学校を色にととえるとどんな色か、という質問を投げかけるなど、こちらの想像を越える反応を見せ始めるではありませんか。少しハードルをあげると、子どもたちはものすごい創造性を発揮します。これは僕自身にもいい勉強になりました。

失敗した姿も見せたほうがいい

最近、失敗を怖がり、自分がこうありたいと思うと、それを崩したくないと思う人が多いようです。でも、人と人との付き合いでは、もっと人間臭いところを見せたほうがいいと思います。昔は、怒りっぽい先生など、苦手に思う先生もいましたが、今思えばそれだけ人間味があったように思います。

子ども料理教室を始めた頃、僕は事前にシミュレーションをしていました。でも、そうすると予定調和でおもしろくないんですよね。かっこよくできなくてもいいと思います。失敗もするから信頼関係が築けるのだと思うし、失敗したら、むしろ「おいしい!」と思えばいいのです。

PROFILE

こう・けんてつ●1974年大阪府生まれ。料理研究家である母・李映林主催のeirin's kitchenにてアシスタントを経験後、2006年に独立。韓国料理を中心に、素材の味を生かしたヘルシーなメニューに定評がある。現在は「コウケンテツのきまぐれ食堂」、「コウケンテツのかんたんHAPPYレシピ」をはじめとするネットコンテンツのほか、雑誌や本、テレビ、イベントなど多方面で活躍中。著書は『僕が韓国料理をつくる理由』（日本放送出版協会）ほか、レシピ本多数。

先生が本気で向き合ってくれたから
信頼関係ができ、学校が楽しかった